



非常に暑い日が続いたと思えば台風が…、不順な天候が続いた7月でしたね。月が変わりいよいよ8月、暑い日が続く中、元気に水あそびなどを楽しんでいければと願っています。

お休み中の計画を立てている方も多いと思います。でも、何もなくても…どこかに行かなくても…ほんのちょっとした少しの工夫で、素敵な夏になるものです。いつもより、子どもたちに多く目を向けてあげてください。きっと、いつもと違った子どもの姿、そして自分の姿が発見できると思います。

また、夏の身体は、おとなも子どもも、かなりの体力を消耗します。だからこそ、いつも以上に「食事・睡眠・休養」が大切になります。健康に留意して、楽しい夏にしてください。

夏バテに負けないために

- ①たくさん遊んだ後は、十分に体を休めて、しっかりと睡眠を取りましょう。
- ②肉・魚・卵・豆製品・乳製品・緑黄色野菜を食べ、バランスの良い食事を心がけましょう。また、朝食は抜かずにしっかり食べましょう。
- ③牛乳やスープも水分補給のひとつです。清涼飲料水はできるだけ減らして、麦茶やお水を飲むようにしましょう。
- ④戸外へ出るときは、直射日光を避けるために、帽子をかぶりましょう。

蚊対策

園では手作りの虫除けスプレーを使用しています。

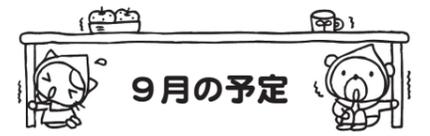
- ・精製水
- ・アルコール
- ・レモングラス (天然植物精油)

⇒虫が嫌いな成分が入っています



- 2(木) 音楽指導(幼児)
- 3(金) 夏を楽しむ会
- 8(水) 避難訓練
- 20~24 身体測定
- 24(金) お誕生日会
- 27(月) 体育指導(幼児)
- 27(月) 職員園内研修
- 31(金) プール納め

◎プール納めにつきましては気温の状態などにより変更となる場合があります。その際には改めてご連絡させていただきます。



- 3(月) 防災集会・引渡訓練
- 4(火) 職員園内研修
- 6(木) 音楽指導(幼児)
- 11(火) 体育指導(幼児)
- 14(金) 敬老の日会
- 18~21 身体測定
- 19(水) 交通安全集会(幼児)
- 21(金) お誕生日会
- 25(火) 調理保育(くま)
- 28(金) 職員会議

災害時ホームページのアドレス変更のお知らせ

緊急時における安否情報についてお知らせする「災害時ホームページ」のアドレスが下記の通り変更となります。お手数ですが、お気に入りなどの変更をお願いします。閲覧の際にはユーザー名・パスワードの入力が必要となり、ユーザー名・パスワードともに「sun(小文字)」と入力下さい。

「お気に入り」に未登録の方は登録をお願いします。

太陽の子保育園災害時HP
<http://saigai-taiyonoko.sblo.jp>

自分を好きになれる子どもに育てる

「完子どもへのまなざし」(福音館) 佐々木 正美 著



私は子どもの精神科の医師として、何千人もの子どもたち、あるいは多くのご家族にお会いしてまいりました。そういう臨床の仕事の経験について、ある雑誌から取材を受けたとき、その記者に「佐々木さんは、子どもたちがどんなふうに育ってほしいと思っていच्छやいますか」と聞かれたことがあります。それも、ひとことで答えてくださいというのです。

かつて、英国の名宰相といわれたチャーチルが、ある難問を新聞記者から投げつけられて、五分くらいで説明してくださいといわれたそうです。そうしたら、チャーチルは「五分で答えるなんていわれたら、最低三日もらわなくちゃ答えられない。一時間説明していいというなら、いますぐ答える」といった話を思い出しましたが、たしかに、こういう質問を、ひとことで答えるのは、非常にむずかしいことですね。みなさんは、どうお答えになるでしょうか。

そのとき、私はちょっと考えて「自分で自分のことを好きになれる子どもに育てたいと思う」と答えたことを覚えています。このことは、いろいろな勉強会でも折にふれてお話ししていたことですから、すぐに答えられたのかもかもしれません。それからすこして、保育士さんの勉強会に講演を頼まれて行ったとき、ある園長さんがこんなことをお話ししてくださいました。

その園の四歳の男の子が「先生、ぼく、悲しいんだ」といったそうです。園長さんが「何がそんなに悲しいの」と聞きましたら、「ぼくはママのこと大好きなんだけど、ママがぼくのことを好きになってくれないんだ」というのです。とっさに、園長さんは「そんなことないでしょう、ママはあなたのこと好きに決まっているよ、お母さんって、みんなそういうものだよ」と、その子をなぐさめたそうですが、その子は「だけど、ママはぼくより、何ちゃんのことを好きだというんだ」といったそうです。

そのお母さんは、その男の子より何ちゃんという弟のほうが、かわいいといったのかもかもしれませんが、その子がどれだけ傷つくかということがわからない人なのですね。その子が「ぼくはママにきらわれているんだ」という、自己否定的な感情をもってしまうことを平気というお母さんに、私は悲しくなりました。

子どもというのは、人から好きになってもらって、はじめて自分のことを好きになれるのです。お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、保育園や幼稚園の先生、学校の先生、友達など、いろいろな人が自分のことを好きになってくれた、そういうことを自分のなかにたくさん取りこんで、発達、成長していくのです。自分のことを好きになってくれる人が多ければ多いほど、その子は自分で自分のことを好きになっていけるし、勉強やスポーツや稽古事などがよくできようができてまいが、いきいきと希望をもってよい子に育っていくものです。

ですから、私は「自分を好きになれる子」ということは、子どもを育てるときのキーワードだと思っています。人間には、いろいろな程度に自分のきれいな部分も好きな部分もあり、それらをさまざまに組み合わせて、自分に対する意識をもってのけるわけですが、きれいなところは一つもありません、100%自分のことを好きですという人はいないと思

ます。子どもたちは、算数がもうすこしできたらいいとか、かけっこがもうすこし速く走れるといいとか、ピアノが上手になるといいとか、さまざまな満足できない部分をもって日々すごしています。ところが「自分を好きになれる子」というのは、あれこれ不十分なところはあるけれど、だいたい、自分は自分のこういうところが好きだ、自分の好きなところを意識できるし、実感できるから元気に生きていくことができるのです。

もって生まれた個性、能力、資質、素質、あるいはそういった種類のもは、基本的にはなかなか変えることはできませんから、自分が好きという感情を育ててあげることがとても大切なことなのです。何かがよくできる子にしてあげると、子どもは自分のことを好きになれるかという、そうではありません。どんなにいろいろなことがよくできるようになっても、その子を心から好きになってあげる人がいないと、子どもは自分のことを好きになれません。ここがとても重要なところなのです。

そして、自分が好きといえる子どもには、「そのままいいから安心していなさい、あんたのこと大好きなんだから」というお母さんやお父さんをはじめ、自分のことを好きになってくれる人がたくさんいます。その人たちがいるから、子どもたちはもっと好きになってもらおうと、もうすこしこういうところを、もうすこしああいうところをというふうに、不十分なところをよくしていこうと努力することができるのです。

ところが近年、日本人は、自分の気に入った面をもっている人でないと、なかなか好きになれないという人が多くなりました。こういう感情をどんどん強くもってきて、私たちおとなが子どもに向ける目も、そうやってきてしまいました。

とりわけ、親は自分を喜ばせてくれる子どもは、当然好きになります。自分を心配させたり、困らせたり、悲しませたりする子どもを、なかなか好きになれないようになりました。もちろん、自分の子どもですから、親の願いとはちがった個性や特性をもった子どもであっても、その子をありのままに好きになれる親はいます。けれど現代の親は、自分が望んでいるとおりに子どもが育ってくれないと、その子を好きになれないという人がだんだん多くなってきました。

自分のことを好きな子どもは幸福ですから、いきいきと元気に活動でき、自分で自分のことを好きになれるのです。私たちは子どもたちを「自分を好きになれる子ども」に育ててあげたいと思いますが、それは一人ではできません。多くの人から好きになってもらわなければならないのです。

一番大切なのは、お母さんから、お父さんから好きになってもらうことです。保育園の子どもであれば、保育士さんから好きになってもらう。そして友達からも好きになってもらう。学校へ行けば、先生や友達から好きになってもらう。こういうふうになると、子どもは自分のことを好きになってもらえる程度に応じて、自分を好きになっていけるのです。ここがいま、非常に弱くなっているわけです。